

# 週刊 タバコの正体

タバコは人々の健康を害し、毎年世界中で600万人<sup>1</sup>、日本では12万人<sup>2</sup>以上の命を奪っています。そんなに死者をだしているのにも関わらず、タバコは国内で年間約2000億本<sup>3</sup>も売られています。どうしてこんな事になるのか不思議ですが、タバコで亡くなった人たちのほとんどが40年も50年も吸い続けた結果、ガンなどを発病して命を落としているので、誰もが「タバコが人の命を奪う」とは感じないからでしょうね。

タバコが40年～50年かけて人の命を奪う事は、50年前の人たちは知りませんでした。だから、1965年の成人男性の喫煙率<sup>4</sup>は、驚くなかれ82%もありました。男性のほとんど全員が喫煙者だと言える状況だったのです。そして、そんな人たちが50年後の現在毎年12万人も亡くなっているのだらうと思われまます。

しかし、もしタバコを吸った途端に健康被害が目に見えて現れ、短期間に命にかかわる病気になるようなら、きっとはるか昔にタバコは世の中から消えていたでしょうが、タバコの影響がでるまでに非常に時間がかかるので、タバコが売れる商品であり続けるのでしょう。そして、さらに驚くなかれ日本には国家の財政収入の安定確保のために、たばこ産業を発展させる法律があるのです。

## たばこ事業法 第1条

この法律は、たばこ専売制度の廃止に伴い、製造たばこに係る租税が財政収入において占める地位等にかんがみ、製造たばこの原料用としての国内産の葉たばこの生産及び買入れ並びに製造たばこの製造及び販売の事業等に関し所要の調整を行うことにより、我が国たばこ産業の健全な発展を図り、もって財政収入の安定的確保及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする。

上の条文のとおり「たばこ事業法」と呼ばれるこの法律には、タバコが人々の健康を害し人命にまで影響する事は一切記載されていません。制定されたのが30年前の1984年ですから、タバコの有害性がまだ世間の常識とはなっていなかったからかもしれませんが、それにしても、いずれ人々の命を脅かすタバコの製造と販売を発展させる法律がいまだに効力を発揮しているなんて、信じられないですよ。タバコの売り上げのために、人命を犠牲にしているなんて・・・納得できるでしょうか。

産業デザイン科 奥田 恭久

<sup>1</sup> WHO report on the global tobacco epidemic,2013  
<sup>2</sup> 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室資料  
<sup>3</sup> (一社)日本たばこ協会「年度別販売実績推移表」  
<sup>4</sup> JT 全国喫煙者率調査